

令和7年度 自己評価シート

認定こども園 光輪幼稚園

1. 本園の教育・保育目標

生きていく力の基礎となる、豊かな人格形成に必要な「こころの成長」（思いやりのあるやさしく素直な心を育てる）、「あたまの成長」（考える力を育てる）、「からだの成長」（健やかな体力作り）を基本とした教育・保育を行い、一人ひとりの個性を導き出し、大きく伸びていくようにする。

2. 本園の重点的に取り組む目標・計画

不適切な保育や置き去り、行方不明など、保育に対する世間の不信感が高まる年度でもあったため、改めて職員間で、不適切な保育について意識を共有し、職員の資質向上に努める。それにとともに、人権擁護のためのセルフチェックリストを活用した。

3. 人権擁護のための取り組み状況（職員による評価平均値から分析）

A：十分意識されている B：意識されている C：取り組まれているが、不十分 D：意識がされていない

		不適切と考えられるかわり	評価
子ども一人ひとりの人格を尊重しないかわり	1	朝、母親に抱かれて、なかなか離れられない子どもに「ずっと抱っこしてもらって恥ずかしいね」と言葉をかける。	A
	2	製作活動で子どもが描いた作品をみて、「そこ違うよ。もう一枚描いてみる？」とだけ言って、描きなおすように働きかけた。	A
	3	排泄の失敗への対応をその場で رفتり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉がけをする。	A
	4	子どもが、友だちをたたく等、良くないことをした際に、執拗に責めるような言葉がけをする。	A
	5	子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う。	A
	6	苦手なことを渋っている子に、「早くやって。できないなら後ろに行って。」と言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする。	A
	7	食事の際、こぼす等の理由で、テーブルに給食のメニューをすべて配膳せず、食べた次のおかずをあげる。または、こぼすたびに叱りながら食べさせる。	A
	8	お迎えに来た保護者に「A君は、今日はケンカをしてお友だちを泣かせてしまいました」と、他の保護者にも聞こえるように言う。	A
	9	子ども同士のトラブルが起きたとき、子どもたちの言い分を聞かず、一方的に判断を下す。	A
	10	自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す。	B
脅迫的な言葉がけ かわり 物事を強要するよくな	1	集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける。	B
	2	なかなか寝つけずにいる子に「早く寝てよ。あなたが寝ないと仕事が出来ないんだよね」と言う。	A
	3	寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言う。	A
	4	どなったり、「〇〇しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの（鬼等）を使ったりして、子どもを保育者の思いどおりに動かそうとする。	A
乱暴なかわり 罰を与える	1	子どもの人数チェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える。	A
	2	並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待たず、腕を掴んで引っ張る。	A
	3	子どもを注意する際に、「だめよ!」と言って子どもの手を叩く。	A
	4	なかなか眠らない子どもに布団を頭からかぶせるなどして強引に押さえつけ、パンパンと強く布団を叩く。	A
	5	保育者が子どもに注意をしたが、言うことを聞かなかった子どもに対し、廊下に立たせる、散歩に行く際に置いて行こうとするなどの罰を与える。	A

かかわり 一人ひとりの子どもの育ちや 家庭環境を考慮しない	1	いつも時間ぎりぎりのお迎えになる子どもに対して、「〇〇ちゃんのお母さん、今日も遅いね」と否定的なトーンで言う。	A
	2	登園が遅い、服が汚れている、お風呂に入っていない、提出物の遅れ等の際に、子どもに「また？」「困るよ。」など否定的な言葉がけをする。	A
	3	いつもぎりぎりの時間にお迎えにくる保護者に「いつもぎりぎりですね」と言ったり、保護者が提出物を忘れた際に「いつも忘れて困ります」と言ったりする。	A
	4	「お休みの日にどこに行ったかお話して」との問いかけについて、クラスの子どもたち『全員』に発表してもらう。	B
差別的なかかわり	1	挨拶をしてきたか否かにかかわらず、特定の子どもにだけ「おはよう」と言葉がけをする。	A
	2	いつまでも泣いている男の子に、「男のくせに」や、乱暴な言葉使いをする女の子に「女の子なんだから」と注意する。	A
	3	少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。	A
	4	寝かしつける際に、いつも同じ子どものそばにばかりつく。	A
	5	クラス全員で帰りの支度をしている時に、なかなかできない子どもに、「〇〇ちゃんは早くできないのね、だめな子になっちゃうよ」と言う。	A

#### 4. 今年度を終えるにあたって

##### 今年度の振り返りと次年度の目標

子ども一人ひとりに声かけやかかわりをもつことを共通認識とし、信頼関係を築けるようにしていった。子どもたちの表情や発する言葉などから、楽しめる保育内容を担任間で話し合って展開できた。また、発達が気になる子の対応や、食事の好き嫌が多い子への食事の進め方など、子どもの思いを大切にしながら、保育者自身も穏やかにかかわれるように、担任間で話し合いながら共通認識をもって進めていった。

来年度も現場の担任の意見を取り入れ、子どもにとって良い保育環境を提供できるようにしていきたい。